

## ラホイ首相が不正献金疑惑で国会答弁

発表日：2013年8月2日(金)

～自身や党の関与を否定、野党の追及をかわす～

第一生命経済研究所 経済調査部  
主席エコノミスト 田中 理  
03-5221-4527

- ◇ ラホイ首相が不正献金疑惑で国会答弁に応じた。首相は改めて自身や党の関与を否定するとともに、辞任の意向がないことを表明した。野党が悪戯に不正疑惑を追及することでスペインの信用を傷つけ、危機脱却を危うくしていると主張し、献金疑惑を経済問題と結びつけ批判の矛先をかわそうとした。
- ◇ 国民党は議会の過半数を確保しており、野党に政権を転覆させる力はない。次の焦点は元会計担当者バルセナス氏への捜査や訴訟のなかで、党の関与を示唆する新たな証言や証拠が出てくるか。司法捜査の対象が首相や国民党に及べば、スペインでも政局不安が再燃しよう。

スペインのラホイ首相は1日、与党・国民党の不正献金疑惑に関連して国会答弁に応じた。首相は一連の疑惑が虚偽や改ざんに基づくものであるとして、改めて自身や党の不正への関与を否定した。党の元会計担当で別の汚職・脱税事件で拘留中のバルセナス氏との関係については、「今は信頼に値しないと知る人物を信頼する過ちを犯した」と述べ、同氏の不正行為を一切知らなかったと主張した。野党・社会党のルバルカバ党首は不正献金疑惑を問題視して首相の即時辞任を要求したが、首相は辞任の意向がないことを改めて表明した。そのうえで首相は、スペイン経済がようやく危機から脱しつつあるなか、野党が悪戯に不正疑惑を追及することでスペインの信用を傷つけ、危機脱却を危うくしていると主張した。献金疑惑を経済問題と結びつけることで批判の矛先をかわそうと試みた。

一連の疑惑が浮上したのは今年の1月。別の汚職事件で捜査を進めていた検察が、バルセナス氏が海外に巨額の隠し口座を保有することを突き止めた。スペインの現地紙が、バルセナス氏の直筆メモとする写真を掲載。そこには、ラホイ首相を含む国民党幹部の名前と金額、別の汚職事件で検挙された建設会社の社長等の名前と金額が記載されていた。バルセナス氏は当初メモの存在を否定したが、その後に自身が記したメモであることを認めた。現地紙の報道では、民間企業や個人から受け取った上限を超える献金を、党の会計責任者であったバルセナス氏が複数回にわたって党の幹部に手渡しし、受け取った資金は未申告であったとされる。ラホイ首相を始め党の幹部は、バルセナス氏が隠し口座の存在を知らなかったとし、同氏の隠し口座が党とは一切関係がなく、名前と金額の書かれたメモを捏造と主張、同氏から資金を受け取ったことを否定している。バルセナス氏は脱税容疑で6月に拘留され、現在は裁判を待っている。別の現地紙は7月に、ラホイ首相とバルセナス氏が親しい関係にあったことを窺わせる携帯電話のテキスト・メッセージを掲載した。その一部は疑惑が浮上した年明け以降に送られたものであった。首相はテキスト・メッセージを送信したことを認めたが、今回の国会答弁で自身がバルセナス氏を信頼したことが誤りだったと主張し、不正献金疑惑への関与を否定した。

国民党は議会で過半数を確保しており、野党勢に政権を転覆させるだけの力はない。国会答弁での野党勢の疑惑追及もラホイ首相や国民党を追い詰めるものではなかった。次の焦点はバルセナス氏への捜査や訴訟のなかで、党の関与を示唆する新たな証言や証拠が出てくるかだ。党の副党首は捜査協力のため8月14日に裁判所への召還を求められているようだ。政治家のスキャンダルには慣れているとされるスペイン国民にとっても、現職の首相や与党の大物政治家が関与する不正の事実が明るみとなれば前代未聞の事件である。国民党の本部前では首相の辞任を要求する抗議デモが続いている。司法捜査の対象が首相や国民党に及べば、スペインでも政局不安が再燃しよう。

以上